

石曾根敦子* 百瀬 浩** 藤原宣夫***

- 50 -

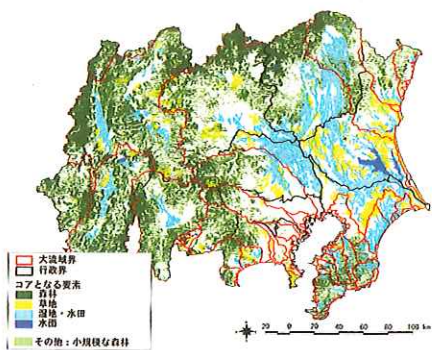


図-2 広域スケール（関東地方）におけるコアと
なりうる自然環境要素

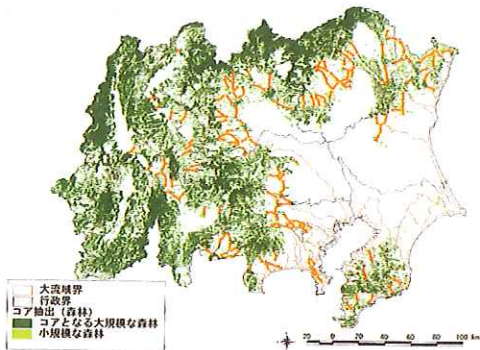


図-3 広域スケールにおける森林要素のコリドーを確保すべき地点

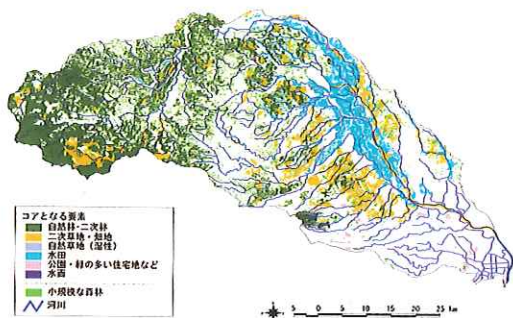


図-4 中域スケール（荒川水系）におけるコアとなりうる自然環境要素

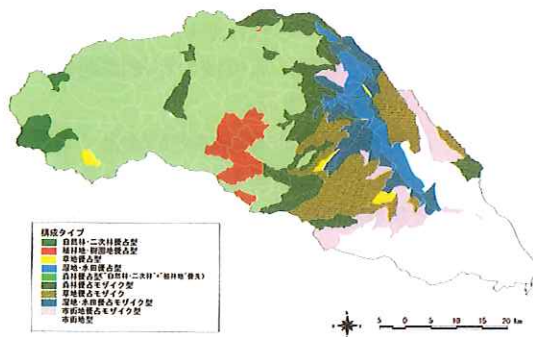


図-5 小流域の自然環境タイプ区分

ある。また、中域スケールにおいては、群落凡例区分を自然度区分レベルとし、50ha以上を対象に抽出したものが図-4である。

また、小域での検討に向けて、計画対象となる流域単位の抽出とその評価が必要である。図-5は国土地理院の細密数値情報の小流域（概ね小域スケールの検討単位に該当する。）を単位とし、植生タイプの占有率をもとに分類を行ったものである。この作業は試行的なものであるが、対策が重要となる小流域の抽出等に際し、基礎的な資料として活用しうるものと考えている。

4. 今後の予定

以上の作業から、自然環境要素のおおまかなネットワーク構造が把握された。次なる作業としては、地形要素を加味しエコトープと呼ばれるような環境区分を行うこと、そして、それらの環境を指標する生物を抽出することにより、エコロジカルなネットワークを明らかにし、さらに、法規制や開発動向などの社会条件を考慮して、エコネット計画としての検討を進める予定である。

石曾根敦子*



国土交通省国土技術政策総合研究所企画部国際研究推進室研究官
(前 同 環境研究部緑化生態研究室研究官)
Atsuko ISHISONE

百瀬 浩**



国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部緑化生態研究室研究官, 理博
Dr. Hiroshi MOMOSE

藤原宣夫***



国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部緑化生態研究室室長
Nobuo FUJIWARA